

よみがえ ^{ゆめ} ^{しま}
蘇る夢の島！

北海道南西沖地震災害と復興の概要



(7月13日 午前7時頃の青苗地区・共同通信社提供)



奥 尻 町



概要版の発行にあたって

奥尻町長 新村 卓 実

平成5年7月12日午後10時17分、突然奥尻島を襲った「北海道南西沖地震」により我が奥尻町は壊滅的ともいえる甚大な被害を受けました。

平和で穏やかな日常生活を送っていた私たちは、マグニチュード7.8という日本海側における観測史上最大級のかつてない地震に遭遇し、本書に示すとおり、人的被害だけで死者172名、行方不明者26名、重軽傷者143名にもおよび、被害総額は約664億円にも達する大惨事となりました。

人口わずか4,000人半ばのこの島にあり、町の年間予算規模が約50億円というひ弱な財政基盤からして、この震災に対しての復旧、復興対策が、いかに私たちにとって甚大かつ重要であるかを、自然がもたらした震災の猛威と恐ろしさから痛感させられました。

震災直後から次々と救援に駆けつけてくださった各救助機関、ならびに企業、民間団体の皆様、我が身の労力を惜しまず懸命のサポートを続けてくださったボランティアの皆様、そして、全国各地から寄せられた膨大な量の救援物資と多額の義援金のおかげをもちまして、あの悪夢のような大震災からようやく立ち直ることができ、奥尻町は平成10年3月定例議会において完全復興を宣言しました。

今私たちが、こうして被災前の「夢の島」ともいわれた奥尻町の再建を図ることができたのも、ひとえに国、道等関係者のご理解とご助言、ならびに全国津々浦々の皆様からの物心両面にわたるご厚情の賜物と厚く感謝申し上げる次第であります。

本書は、北海道南西沖地震による被害状況と、蘇った奥尻島の姿を紹介し、復興状況視察等にご訪問いただいた皆様方への参考資料として、その概要を簡素にまとめております。

北海道南西沖地震という未曾有の大災害を経験した私たち奥尻町民にとって、震災に強い新しいまちづくりをなしとげたことは、多くの尊い犠牲者の方々に対する最大の鎮魂であり、多大なご支援を戴いた全国の皆様への唯一のご報恩であると考えております。

“蘇った夢の島・奥尻”は、将来テーマを「心かよいあう幸の島：みんなのおくしり」と定め、今後とも奥尻全町民が一丸となって日々邁進する覚悟でおりますので、今後とも皆様のご理解とご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

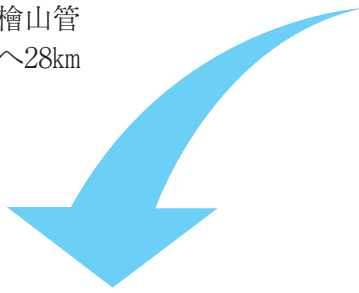
平成26年6月

奥尻町の概要

奥尻町は、北海道の最西端に位置し、檜山管内江差町から西北へ61km、大成町から西へ28kmの日本海に浮かぶ離島です。

「おくしり」の由来は、古いアイヌ語の「イクシユン・シリ」がその後「イクシリ」と訛ったもので、イクは「向こう」、「シリ」は島の意味です。

この「向こうの島」は東西11km、南北27km、周囲84kmと細長く、総面積は143km²と道内で2番目に大きな島です。



かつては東洋一といわれた硫黄が採鉱されていただけあって道内の離島では唯一天然温泉が湧いています。

豊富な水産資源と数々の自然の美しさを備えた観光資源を有することから、基幹産業は主に水産業と観光業が盛んで、古くから「夢の島」「宝の島」「北海道の秘境」として有名です。

奥尻町の概要

町制施行	昭和41年1月1日
経度	139度31分03秒
緯度	42度10分11秒
人口	男 1,494 人 (H26. 3)
	女 1,432 人 (H26. 3)
	計 2,926 人 (H26. 3)
世帯数	1,558世帯 (H26. 3)

1.地震



▲地震発生直後、大規模な崖地の崩壊により、ホテルとレストラン、灯油備蓄タンクが一瞬のうちに飲み込まれ、29名の尊い命が犠牲となった奥尻地区 (朝日新聞社提供)



地震の震源は、北海道南西沖（北緯42度47分、東経139度12分）で、震源の深さは34km、マグニチュード7.8。

奥尻島はもとより、北海道や東北地方の各地で震度5の強震から震度4の中震を記録しました。

震源域は奥尻島を含むと推測され、奥尻島は地震計が設置されていないため、震度6の烈震と推定されています。

この地震だけで、地殻変動による地割れや陥没、建物の倒壊、液状化現象による田畑や道路など、各地区で大きな物的被害をもたらしました。

また、地震による崖地の崩壊が随所で発生し、特にホテルごと飲み込んだ奥尻地区での崖地の崩壊は、島外からの宿泊客を含めて29名もの方々が犠牲となったり、灯油備蓄タンクを押し潰して灯油が流出するなどの大惨事を招きました。

◀震度分布図（気象庁「災害時地震・津波速報」より）

2.津波



▲青苗地区 (毎日新聞社提供)



稲穂地区 (朝日新聞社提供) ▶

▲地震発生後間もなく大津波が来襲し、密集した家々や人々を一瞬のうちにさらっていき、集落はまるで戦争の跡地のように何もかも無くなってしまった

この地震に伴い、札幌管区気象台は午後10時22分に北海道の日本海沿岸に大津波警報を発表しました。

震源に近い奥尻島では、地震発生から2～3分後に津波の第1波が来襲したものとみられており、特に北端部の稲穂地区、南端部の初松前と青苗地区西海岸の藻内地区などの集落が壊滅的状态となるなどの大きな被害をもたらしました。

また、津波は奥尻島のみにとどまらず、北海道渡島半島西部(檜山管内)や東北地方にもおよび、来襲を繰り返して長時間継続しました。

津波の到達した高さは右図のとおりで、最高が藻内地区では29mにも達していますが、ある学者によると31mという説もあります。

考えられない高さの津波の来襲で家や集落が一瞬のうちに壊滅しましたが人的被害のほとんどはこの津波によるものでした。



3.火災



▲津波の襲来直後、難を逃れた家々に今度は火災が発生し、見る見るうちに延焼が広まって大火災となり、市街地を焼き尽くしていった青苗地区 (朝日新聞社提供)

この地震に伴い、青苗地区で船舶火災2件、建物火災1件、奥尻地区で車両火災1件が発生しました。

出火原因は不明で特定できていませんが、建物火災の第1出火点が、地震発生直後の7月12日午後10時35分ころと推定されることから、地震および津波が誘引となって出火したものと推測されています。

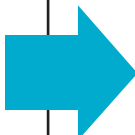
青苗地区の建物火災は、翌朝9時20分に鎮火するまで広範囲にわたって延焼が続いたため、津波の直撃を受けた市街地の被害にさらに拍車がかかり、青苗地区の市街地は壊滅状態におよびました。

まお、この建物火災により、2名の方が犠牲となりました。

火災の概要

地震発生時間	平成5年7月12日(月)22時17分	
震源地	北海道南西沖 (N42.47 E139.12)	
震源の深さ	34km	
地震の規模	マグニチュード7.8	
奥尻における推定震度	不明 (新聞等では震度6の報道あり)	
出火時間	第1出火点 平成5年7月12日 推定22時35分	第2出火点 平成5年7月13日 推定0時15分
覚知時間	第1出火点 平成5年7月12日 推定22時40分	第2出火点 平成5年7月13日 推定0時45分
鎮圧時間	平成5年7月13日 8時35分	
鎮火時間	平成5年7月13日 9時20分	
出火種別	建物	
出火場所	第1出火点・奥尻町字青苗233番地付近一帯	第2出火点・奥尻町字青苗160番地付近一帯
出火原因	不明 (特定できず)	
死傷者	死者2名	
焼損程度	焼損棟数 189棟 全焼 189棟	
焼損面積	18,972.77㎡	
損害額	1,244,293千円	
罹災世帯数等	108世帯 311人	
青苗地区	世帯数	504世帯
	人口	1,401人

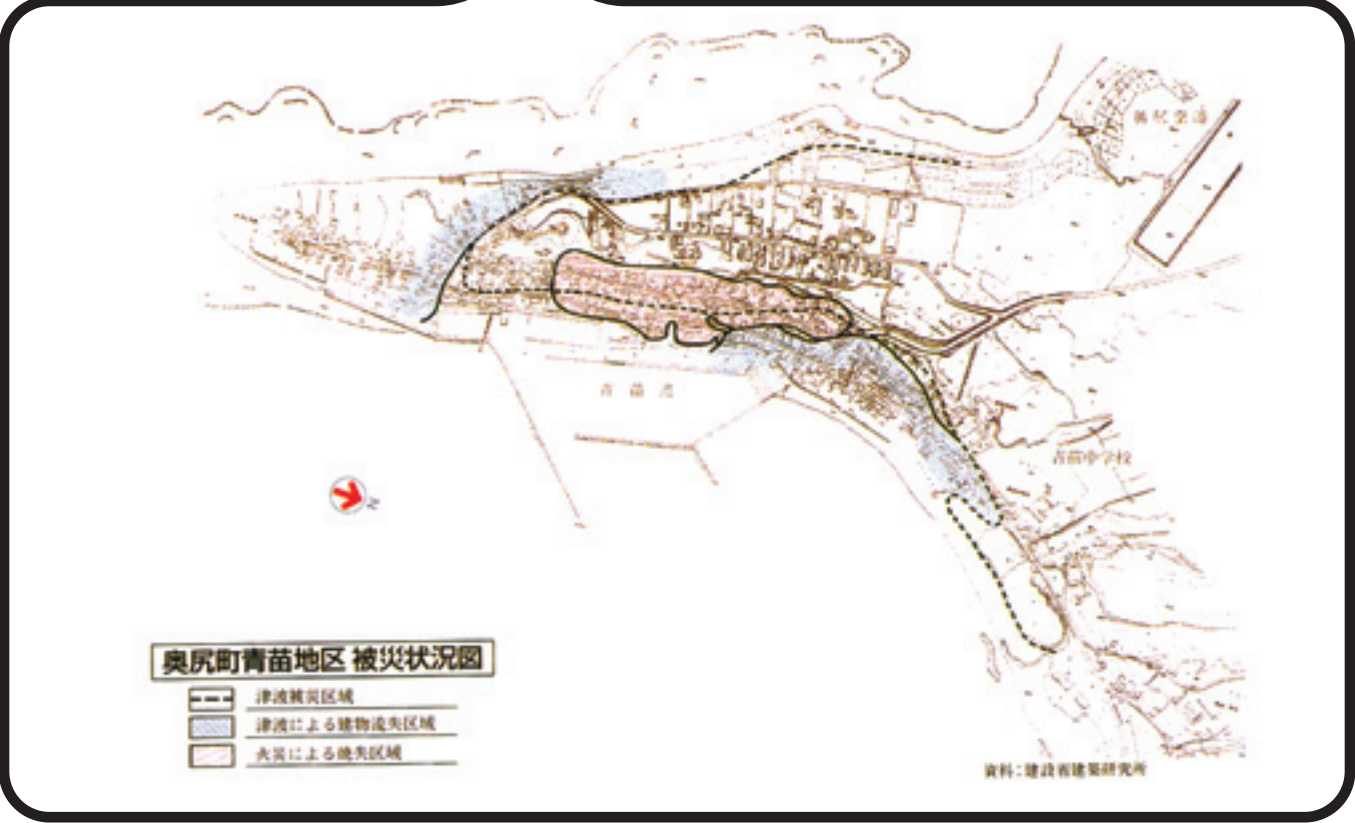
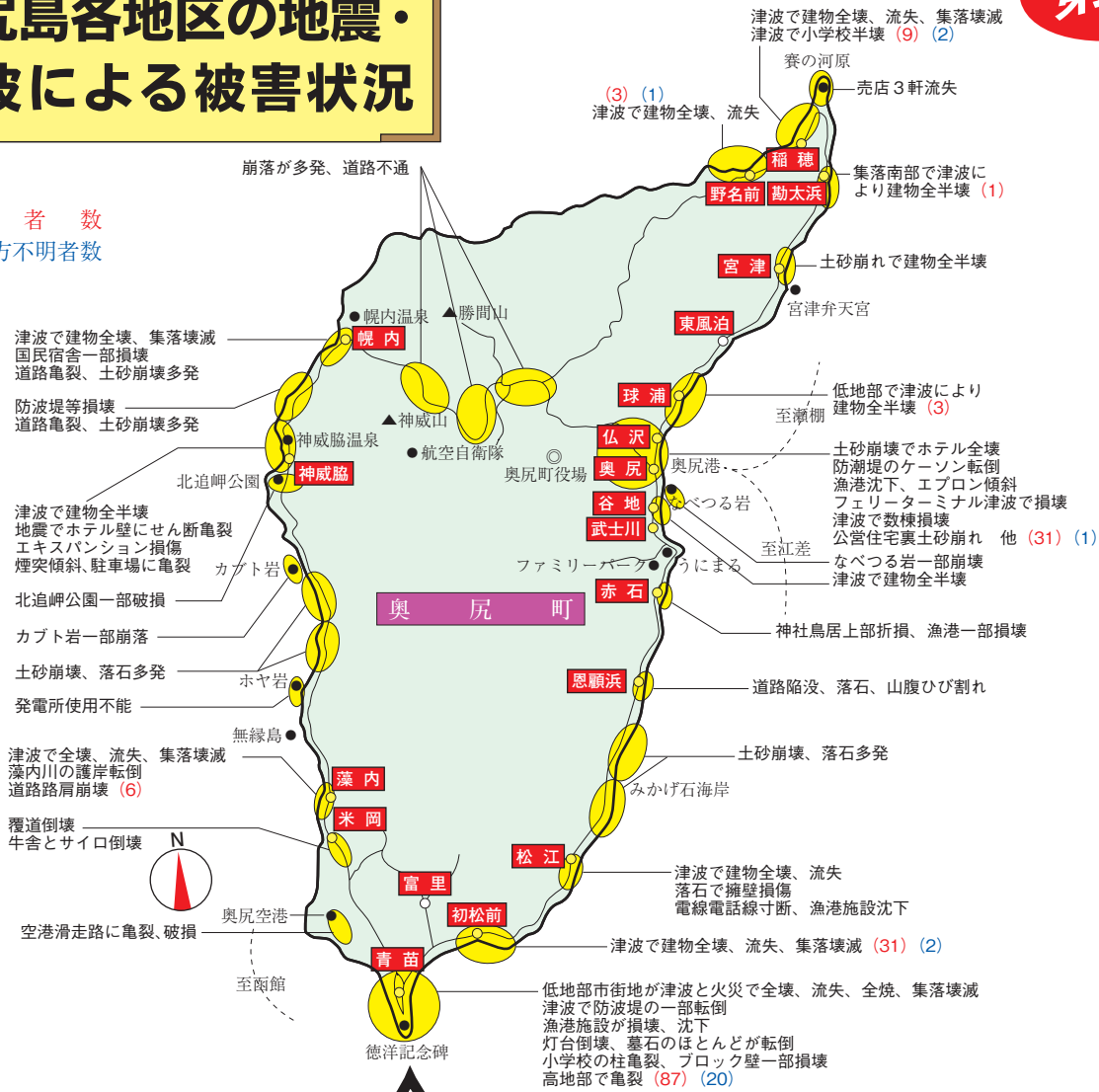
火災種別	出火日時	出火場所
船舶火災	7月12日22時30分頃	奥尻町字青苗、青苗漁港内
船舶火災	7月12日22時30分頃	奥尻町字青苗、青苗漁港内
建物火災	第1出火点 7月12日 推定22時35分頃	第1出火点 奥尻町字青苗 233番地付近一帯
	第2出火点 7月13日 推定0時15分頃	第2出火点 奥尻町字青苗 160番地付近一帯
車両火災	7月13日4時30分頃	奥尻町字奥尻309番地の3



(檜山広域行政組合消防本部資料より)

奥尻島各地区の地震・津波による被害状況

() 死者数
 () 行方不明者数



最終被害状況

北海道南西沖地震被害の概要

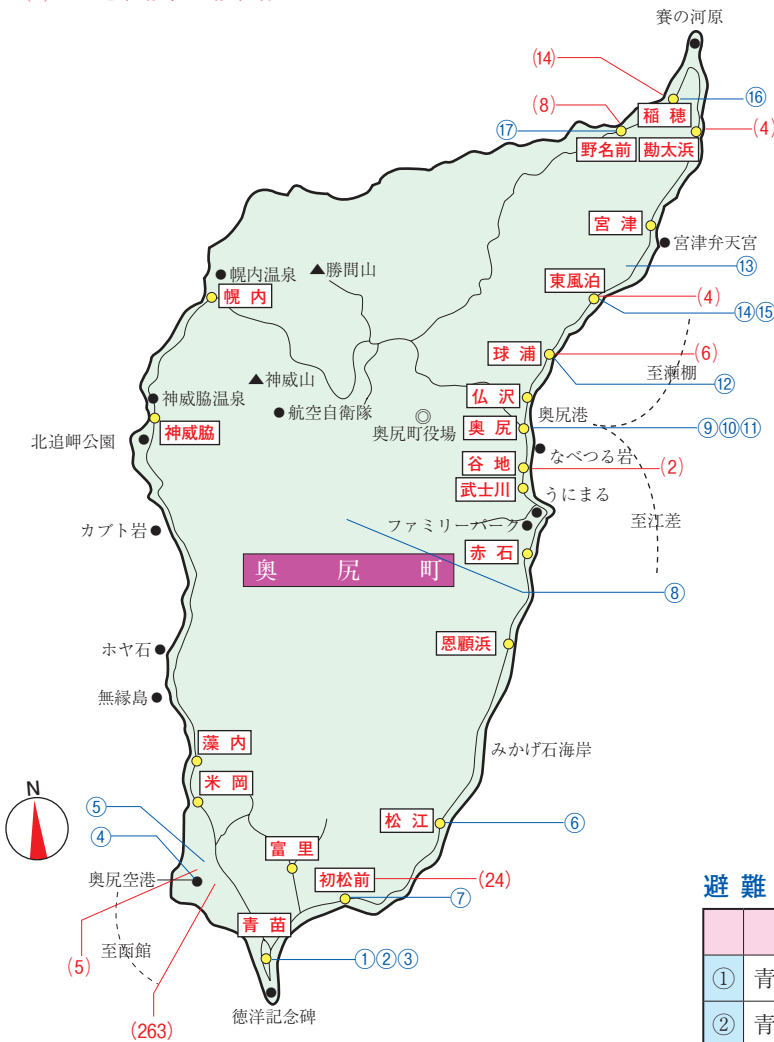
項 目			件 数	被害金額(千円)	項 目			件 数	被害金額(千円)	項 目			件 数	被害金額(千円)												
人的被害	死者		172		土	道	海 岸	19	9,297,300	衛生被害	水 道	2	66,821													
	行方不明		26								工 事	砂防・急傾斜施設	11	25,300	病 公 立 院 個 人	病 公 立 院 個 人	3	81,215								
	重 傷		50													道 路	175	2,810,430	一 般 廃 棄 物 処 理 施 設	一 般 廃 棄 物 処 理 施 設	3	138,000				
	軽 傷		93																	橋 梁	3	53,000	計	計	8	286,036
	計		341													小 計	208	12,186,030	商 工 被 害					商 業	107	1,228,290
住 家 被 害	全 壊	棟 数	437	木	市 町 村 工 事	河 川	10	89,500	工 業	15	881,700	そ の 他	82	2,024,210												
		世 帯 数	442												3,909,200	橋 梁	1	80,000	計	計	204	4,134,200				
		人 員	1,242																	港 湾	2	9,458,700	公 立 文 教 被 害	小 学 校	5	888,183
	棟 数	88	漁 港																					8	10,008,000	中 学 校
	半 壊	棟 数													88	空 港	1	66,437	計	高 校	1	3,068				
	棟 数	88	計												244					32,105,167	計	そ の 他 文 教 施 設	2	5,500		
	人 員	276														308,000	漁 船	沈 没 流 失	421			3,037,900	計	計	10	1,548,007
	一 部 破 損	棟 数	827												水					破 損	170			313,986	計	計
	棟 数	827	694,500													産 被 害	共 同 利 用 施 設	49	1,122,921			計	計			4
	世 帯 数	1,126													101,477					漁 具 (網)	938		950,525	計	計	4
人 員	2,256	3,300	水 産 製 品				計	計	2	15,897																
棟 数	47							5,016,477	そ の 他	4	571,478	計	計	2	15,897											
世 帯 数	47	101,477	計	1,987	6,873,853	計	計						2	15,897												
人 員	148						101,477	水	破 損	170	313,986	計	計	4	11,320											
棟 数	11	3,300	産 被 害	共 同 利 用 施 設	49	1,122,921							計	計	4	11,320										
世 帯 数	11						3,300	漁 具 (網)	938	950,525	計	計		2	15,897											
人 員	38	5,016,477	水 産 製 品									計	計	2	15,897											
棟 数	1,410						5,016,477	そ の 他	4	571,478	計		計	2	15,897											
世 帯 数	1,714	5,016,477	計	1,987	6,873,853	計						計	2	15,897												
人 員	3,960						5,016,477	計	1,987	6,873,853	計	計	2	15,897												
非 住 家 被 害	全 壊	公 共 建 物	9	178,996	水	計						1,987	6,873,853	計	4	571,478	計	2	15,897							
		そ の 他	341				108,569	林																		
	半 壊	公 共 建 物																						5,486	一 般 民 有 林	林 地
		そ の 他	4				114,055	治 山 施 設	8	312,000	計									55	15,811,958	計	55			
	計	公 共 建 物	9																					114,055	林 産 物	2
そ の 他		345	114,055	そ の 他	2	66,300	計	55	15,811,958	計	55	15,811,958	計	55	15,811,958											
農 業 被 害	農 地 (ha)	田・畑															324,311	業 被 害	一 般 民 有 林	小 計	55	15,811,958	計	55	15,811,958	被 害 金 額 (千 円)
	農 作 物 (ha)	田	44.0	18,098	林 地	43	15,422,000	計	55	15,811,958	計	55	15,811,958	被 害 金 額 (千 円)	66,420,277											
		畑	10.0													437										
	農 業 用 施 設	14	188,000	林 産 物	2	11,658	計	55	15,811,958	計	55	15,811,958	被 害 金 額 (千 円)	66,420,277												
	共 同 利 用 施 設	2													10,000	そ の 他										
	営 農 施 設	84	9,376	計	55	15,811,958	計	55	15,811,958	計	55	15,811,958	被 害 金 額 (千 円)	66,420,277												
	そ の 他														9,376	計										
計	100	324,311	計	55	15,811,958	計	55	15,811,958	計	55	15,811,958	被 害 金 額 (千 円)	66,420,277													

地区別死者・行方不明者
(単位：人)

地区名	死 者	行方不明者
稲 穂	13	3
宮 津	0	0
球 浦	3	0
奥 尻	31	1
赤 石	0	0
松 江	31	2
富 里	1	0
青 苗	87	20
米 岡	6	0
湯 浜	0	0
合 計	172	26

避難状況・応急仮設住宅状況

○…避難場所
()…応急仮設住宅設置数



▲一時的に設置された仮設住宅
(共同通信社提供)

住家を失い、被災を受けた住民は、直ちに地域防災計画で指定されている学校や集会所などへ下表のとおり避難しました。

また、被災者の一時的な住宅確保のため、災害応急仮設住宅が島内9カ所に330戸設置され、被災者が自らの住宅を再建するまでの生活の安定が図られました。

なお、災害応急仮設住宅は、現在全て、撤去されております。

応急仮設住宅設置及び入居状況

(平成5年8月現在)

地区名	設置戸数	入居世帯	入居人数
米岡	5	5	7
青苗	263	263	714
松江	24	24	59
谷地	2	2	8
球浦	6	6	22
東風泊	4	4	10
勸太浜	4	4	19
稲穂	14	14	32
野名前	8	8	28
9地区計	330	330	899

避難状況

	避難所	避難期間	実人数	延人数
①	青苗中学校	7/13~8/15	660	8,736
②	青苗小学校	7/13~7/21	130	710
③	奥尻町青苗支所	7/13~8/2	10	148
④	奥尻空港	7/13~7/18	50	280
⑤	米岡自治振興会館	7/13~8/28	160	2,777
⑥	松江老人憩いの家	7/13~8/9	55	839
⑦	松江児童会館	7/13~7/14	11	16
⑧	奥尻高校	7/13~8/1	270	1,563
⑨	奥尻小学校	7/13~8/13	125	2,127
⑩	奥尻町公民館	7/13~7/21	50	290
⑪	母子健康センター	7/13~7/19	35	175
⑫	球浦自治振興会館	7/13~7/15	50	895
⑬	宮津小学校	7/13~8/4	248	1,386
⑭	東風泊自治振興会館	7/13~7/26	25	299
⑮	東風泊保育所	7/13~8/8	75	907
⑯	レストラン波濤	7/13~7/27	30	442
⑰	野名前自治振興会館	7/13~8/10	30	777
	合計		2,014	22,367

復興計画策定の経緯

奥尻町は、今回の未曾有の大災害に対して、平成5年10月1日に「災害復興対策室」を設置するとともに、国や北海道の支援を受けながら各種の事業を進めてきましたが、青苗地区、初松前地区、稲穂地区などの被害があまりにも大きいことや、被害が全島内に広範多岐にわたっていたことから、単に復旧のみに留まらず復興という形で事業計画を作成することが必要であり、このため平成9年度を目標とした「奥尻町災害復興計画」を策定し、各事業の実施を推進してきました。

しかしながら、計画の策定にあたっては、通常の災害のように関係課の復旧事業だけでは、到底、地域としての復興を図り得ないことや、特に災害に配慮した総合的な“まちづくり”については専門的なノウハウも必要であることから、北海道に対して「まちづくり復興計画（素案）」の提示などの支援をもとめるとともに、「第3期奥尻町発展計画」の目的に沿って基本方針を定めた上で基本計画の策定を行ってきました。

なお、各事業の推進にあたっては、「実施計画」を策定して復興を推進してきました。

復興基本計画の構成

	項 目	内 容		
生活 再 建	1. 住宅の再建	ア 公営住宅の建設	災害公営住宅建設	
		イ 個人住宅の建設	被災者個人住宅再建時の助成	
	2. 基幹産業の再建	ア 水産業・農業の再建	漁船・漁具・共同利用施設等の整備用・排水路、農業機材、共同利用施設等の整備	
		イ 観光の再開	被災した観光ルート・ポイント、売店及び宿泊施設の整備等	
		ウ 後継者の育成	若年労働者の定着	
	3. 生活の安定及び社会生活基盤の確保	ア 生活の安定	資金の利子助成、灯油購入助成	
イ 社会生活基盤の整備		医療保健施設、文教施設、社会福祉施設の整備		
防災 ま ち づ く り	1. 各地区のまちづくり	新しい集落の形成	土地の再編成・高度利用（漁業集落環境整備事業・まちづくり造成事業）高台への移転（防災集団移転促進事業）	
	2. 避難対策	ア 避難計画の策定	計画の策定と防災ハンドブックの作成	
		イ 避難施設の整備	避難路、避難場所、集合避難施設などの整備とライフラインの確保	
3. 防災活動体制の強化	防災体制の構築	災害情報の管理・通報・組織の強化と施設整備		
地 域 振 興	1. 水産業の振興	ア 漁業協同組合再建	檜山管内8単協の合併促進	
		イ 水産基盤の整備	漁場の造成、魚礁の整備、経営基盤の強化・研修支援	
		ウ 栽培漁業の振興	資源の増大（養殖施設の設置）生産技術の導入	
		エ 地場資源の有効活用対策	流通経路の開発、加工センターの建設遊漁施設整備	
振 興	2. 農業の振興	ア 土地利用型農業の振興	畑地帯総合整備事業の推進 農地保全事業の推進	
		3. 観光の振興	ア 観光資源の整備	津波研究資料館の建設 観音山慰霊公園の整備
			イ 観光関連施設の整備	観光機能の強化 大型宿泊施設の建設促進
			ウ 観光イベント等の促進	奥尻三大祭りの活用 郷土再発見運動の促進 復興PRの実施
4. 芸術文化の振興	エ 観光の通年化	奥尻独自の料理などの開発		
	ア 文化意識の啓発	文化活動への参加		
	イ 郷土芸能の保存	地域文化としての活性化と保存		
	ウ 創作活動の促進	自主的な創作活動の促進		

復興基本計画

目的

復興基本計画を策定する目的は、「第3期奥尻町発展計画」に沿うよう、近い将来における“復興”の姿を明確にすることにより、町民や関係機関（国、北海道など）の、奥尻町の復旧・復興に対する、理解と協力を醸成することにあります。

また、各種の事業の相互関係や方向性を定めることにより、より効果的な事業化や復興水準の向上を図りました。

目標年次

基本計画の3つの柱「生活再建」、「防災まちづくり」及び「地域振興」に沿った各事業計画の目標年次は平成9年度といたしました。

復興基本計画の構成

復興基本計画の構成は右表のとおりです。

まちづくり

青苗地区のまちづくり

北海道では、災害救助法が適用された奥尻町の青苗地区などを対象に、復興計画の検討に取り組み、北海道としての復興計画素案をまとめて奥尻町へ提案し、町では、それを受けて地元住民の意向を把握し、土木現業所が実施する防潮堤や道々の整備計画と整理を図りながら、事業化に向けて検討が進められました。

青苗地区や稲穂地区では「漁業集落環境整備事業」が水産庁の補助事業として認められ、また、初松前地区では「まちづくり集落整備事業」が町の単独事業として進められました。

いずれの事業も、津波高より求められた防潮堤の背後に盛土を行って一定の高さに整備し、道々奥尻島線の改良、集落道路、生活排水処理施設、避難広場、防災安全施設など、防災面、安全面に配慮した市街地計画にもとづき整備を行いました。

また、青苗岬地区では、「防災集団移転事業」が国土庁の補助事業として認められ、高台地区に宅地造成を行いました。

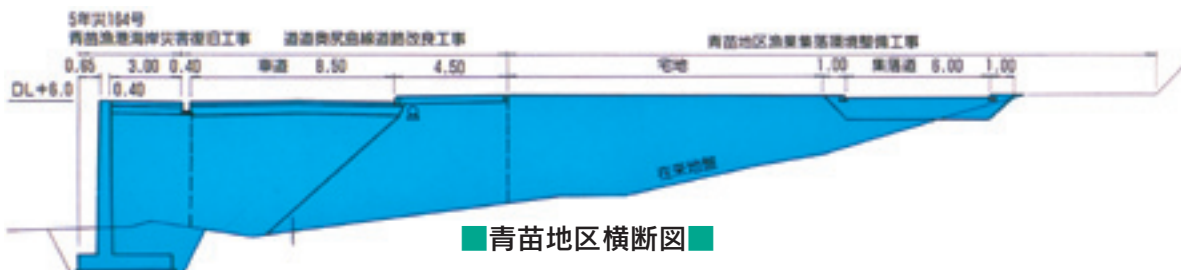
旧市街地は防潮堤の背後を盛土し宅地を整備しました。
岬地区は、10年前にも津波に因る被害があったため、公園等を整備し非住家地区とし高台へ集団移転しました。

整備された施設

- 道路(道道、町道、漁港道路)
- 生活排水処理施設
- 防災安全施設
- 緑地等



青苗地区平面図



青苗地区横断図

初松前地区のまちづくり

初松前地区では、町の単独事業である「まちづくり集落整備事業」として、防潮堤の背後地を盛土(3m)して宅地整備を進めました。

宅地は26区画で、この他に公営住宅4戸が整備されました。

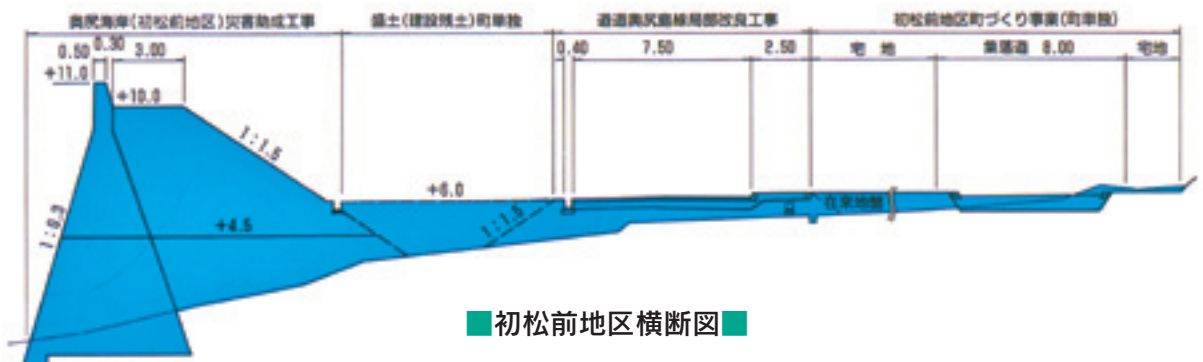
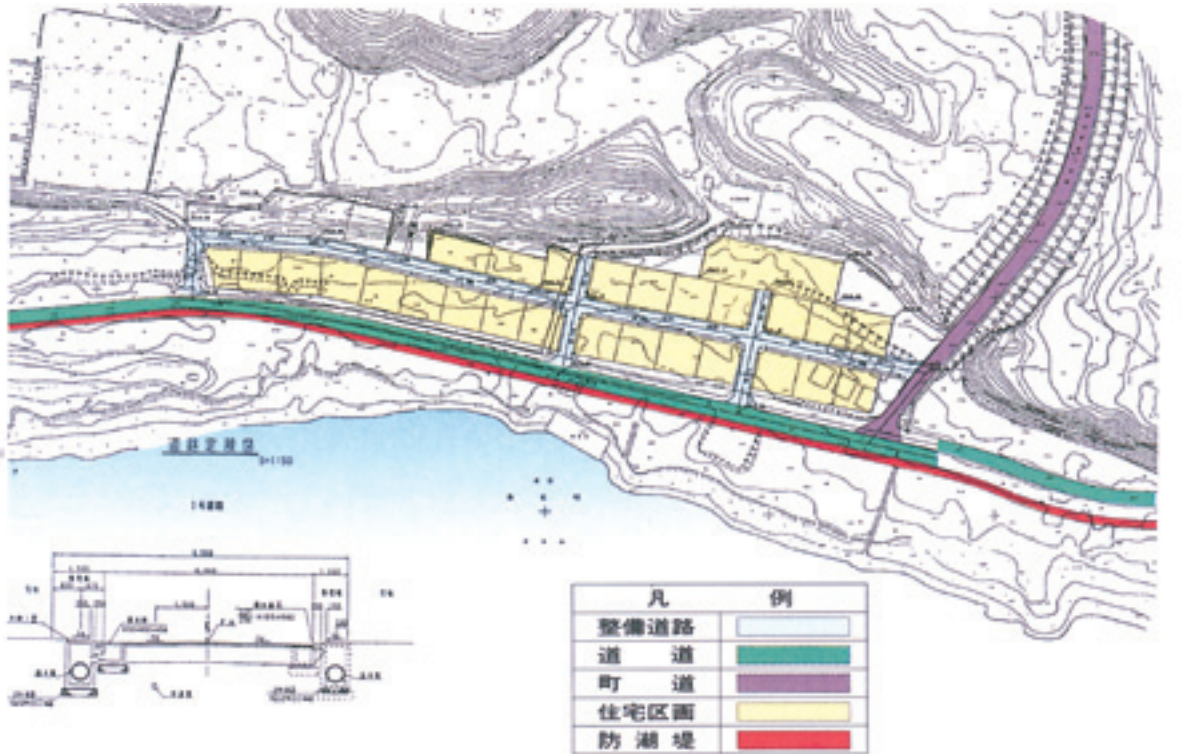
▼壊滅した町並が蘇った初松前地区



整備された施設

- 道路(道道、町道)
- 上水道施設
- 防災安全施設

初松前地区まちづくり復興計画平面図



初松前地区横断面図

まちづくり

稲穂地区のまちづくり



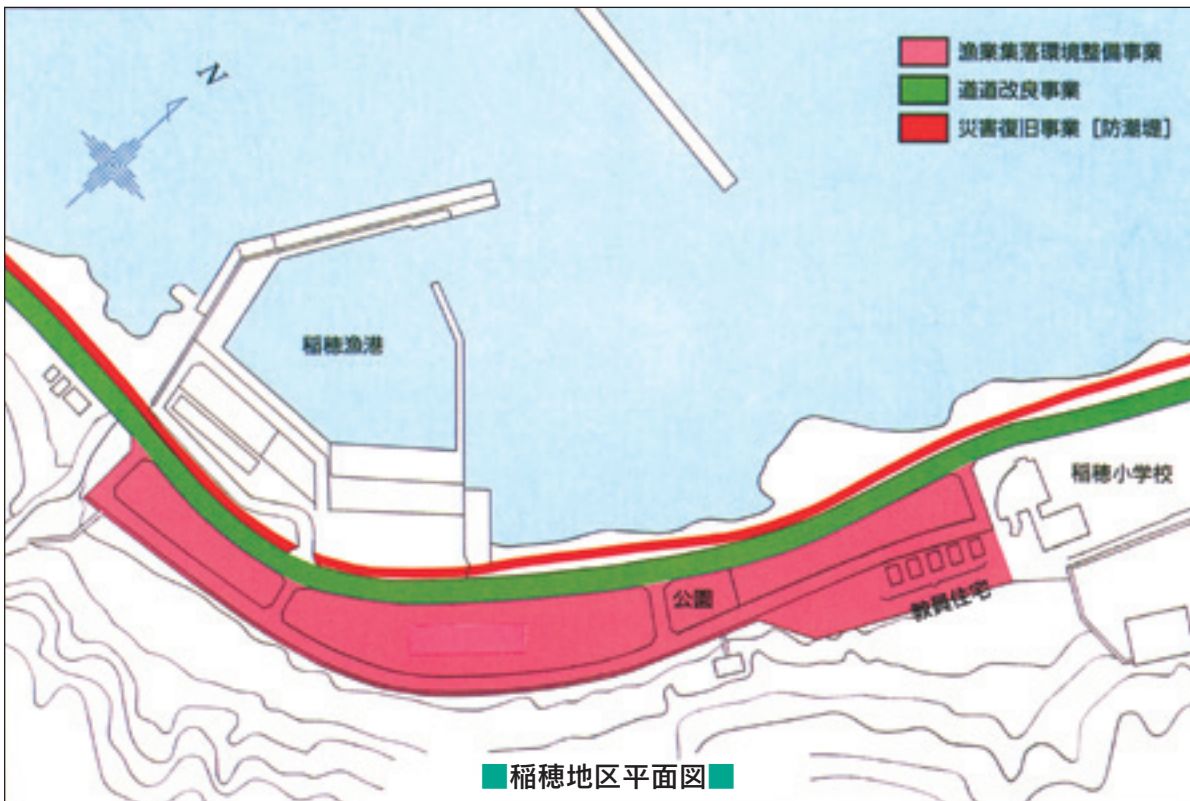
▲新しく生まれ変わった稲穂地区

稲穂地区では、水産庁の補助事業である「漁業集落環境整備事業」として、防潮堤の背後地を盛土(5m)して宅地整備を進めました。

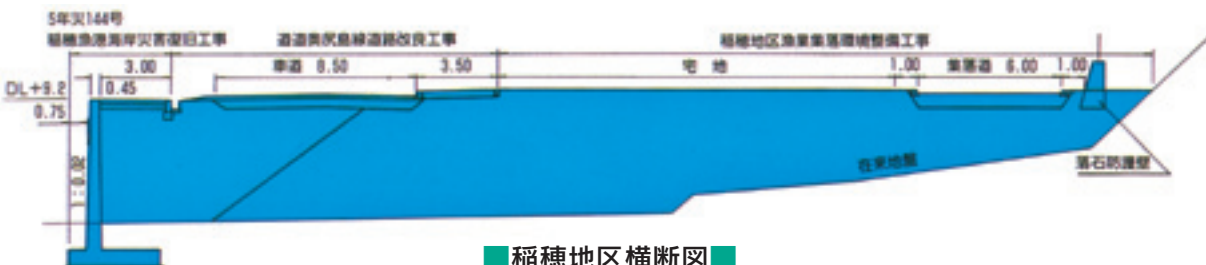
この宅地にはそれぞれ被災にあわれた方が住宅を再建され、この他に公営住宅4戸、教員住宅5戸が整備されました。

また、被災を受けた稲穂小学校も新校舎が既に完成しています。

整備された施設 ●道路(道道、町道、漁港道路) ●生活排水処理施設 ●防災安全施設 ●緑地



■稲穂地区平面図■



■稲穂地区横断図■

奥尻町では、全国各地から寄せられた多くの義援金の中から、当初90億円を原資として被災者の方々の自立復興を強力に援助しようと「災害復興基金」を設立させました。

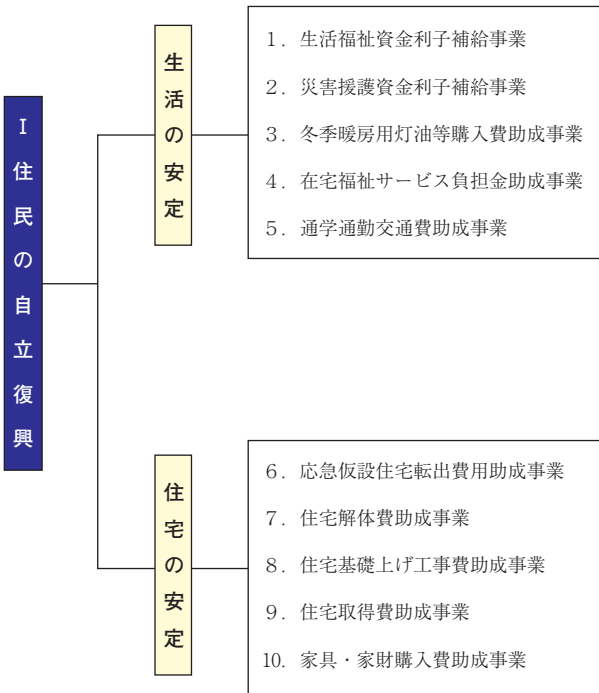
この基金は、町民の皆さんのご要望やご意見をはじめ、国や北海道の助言、指導等を参考にしながら、被災者の方々や町の復興のために、貴重な義援金をいかに有効に役立てるべきかの検討を進めました。

その結果、奥尻町議会の承認を得て右図のとおり73項目に及ぶ支援事業の助成内容を冊子にまとめて全町民に配布しました。

被災者のための支援事業は多種にわたり、様々な角度からの復興基金の助成により、被災者の救済及び町全体の復興が着実に図られました。



▲被害復興基金からの助成により、ほとんどの被災者の住宅建築が図られた



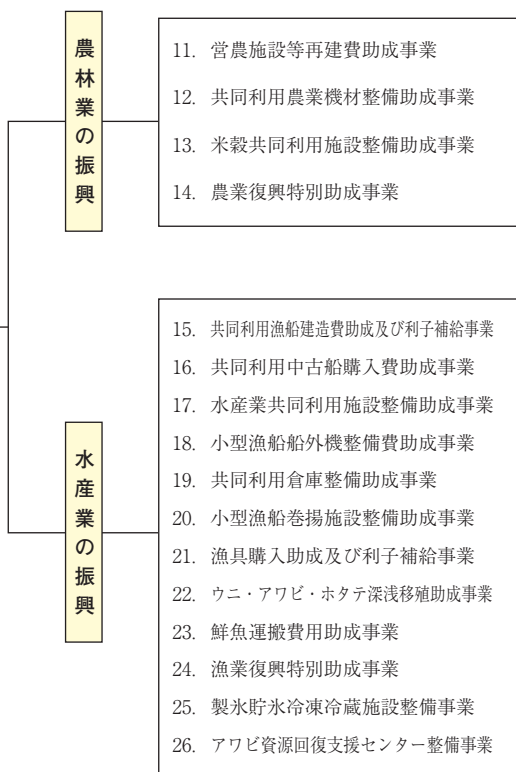
▼津波と火災により跡形もなくなった青苗地区が再び蘇った



▼被災した漁船も FRP 船としていち早く整備された



II 農林水産業の復興支援



災害復興基金

北海道南西沖地震復興の概要

このように、全国各地から寄せられた多くの義援金があれば、今の奥尻町の復興は考えられず、被災者及び奥尻町民一同、あらためて全国の皆様の善意に心から感謝しております。

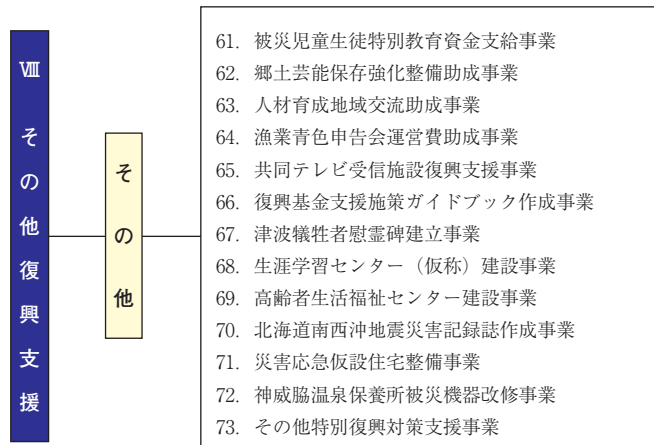
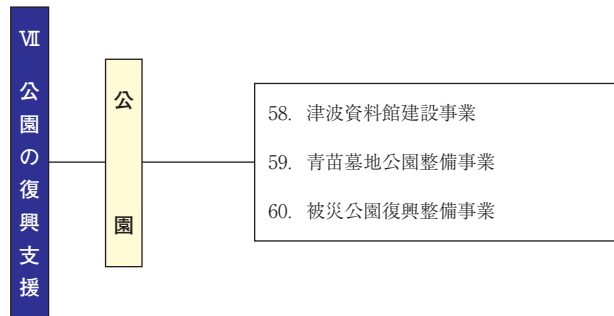
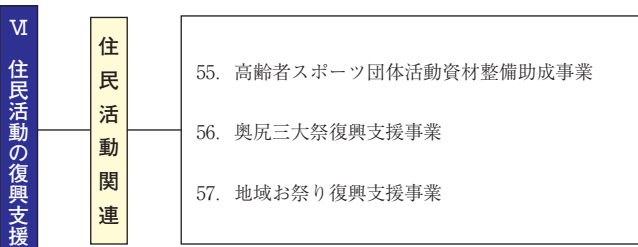
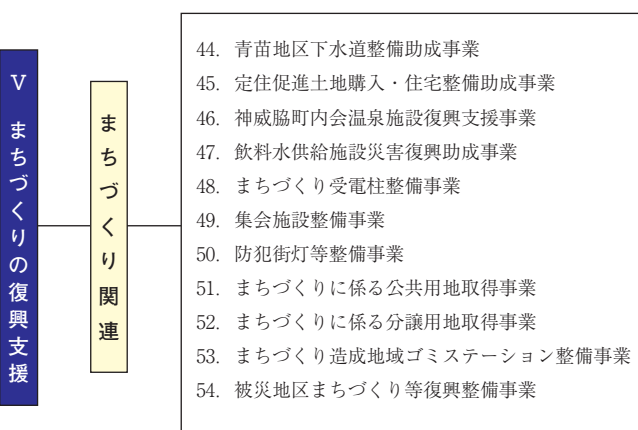
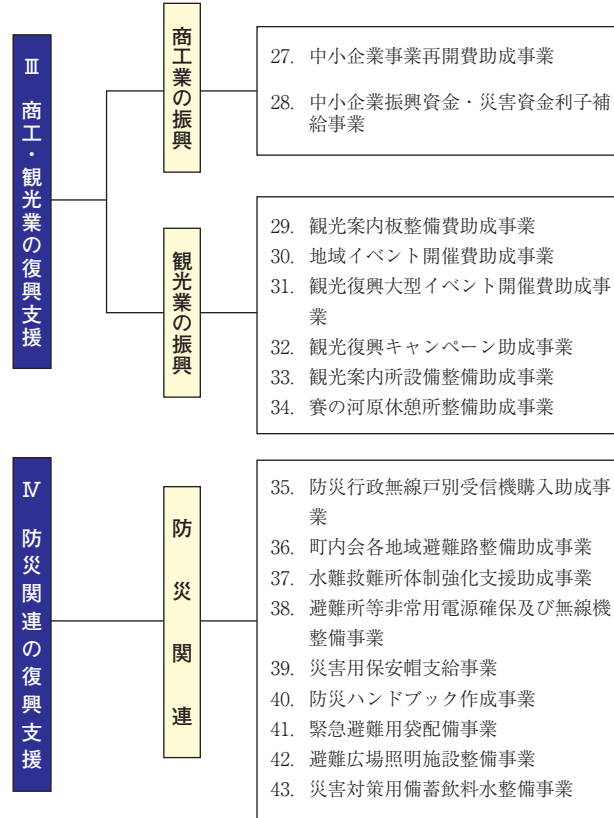


▲多くの義援金のおかげで確実に復興した青苗地区

津波の高さが随所で示されている



緊急時の避難路も整備された

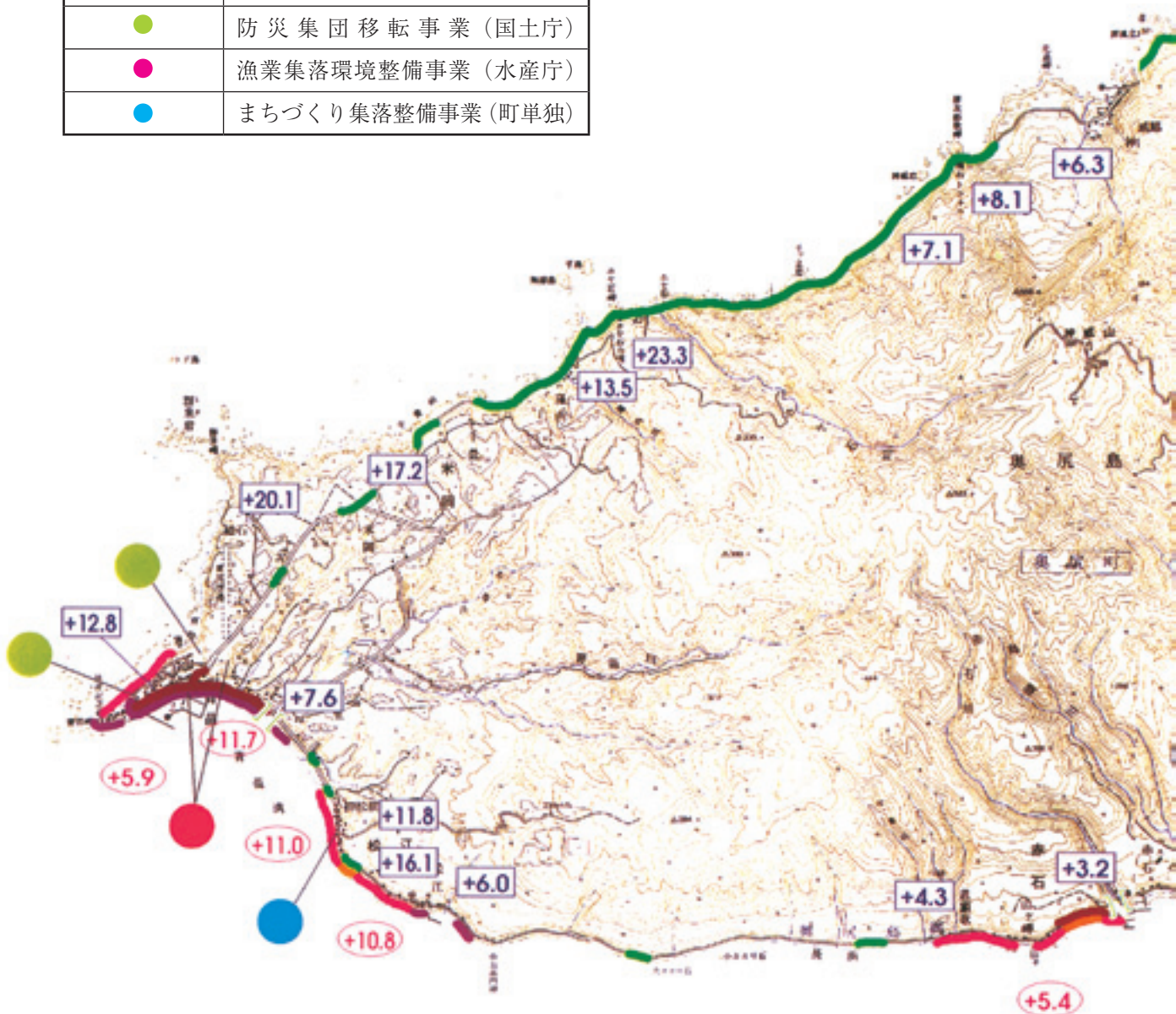


凡	例
	道路災害復旧工事
	道路改良工事(まちづくり関連)
	道路護岸(津波対策高)
	河川水門新設(津波対策)
	建設省所管海岸災害復旧工事及び助成工事
	建設省所管海岸高潮対策
	水産庁所管災害復旧工事
	水産庁所管高潮対策
	運輸省所管海岸災害復旧工事
	津波痕跡高(T・P)
	津波対策高(T・P)
	防災集団移転事業(国土庁)
	漁業集落環境整備事業(水産庁)
	まちづくり集落整備事業(町単独)

北海道函館土木現業所奥尻出張所では、このたびの地震、津波災害の復旧、復興、及び今後の防災対策として、防潮堤や道路などの整備を進めました。

下図のとおり、青字で示した数値が津波の痕跡高で、この高さを基準に赤字で示す津波対策高により、基本的に住家のある区間のみ防潮堤が整備されたものです。

工事は急ピッチで進められ、平成8年度中に高潮対策を除くすべての事業が完成しました。



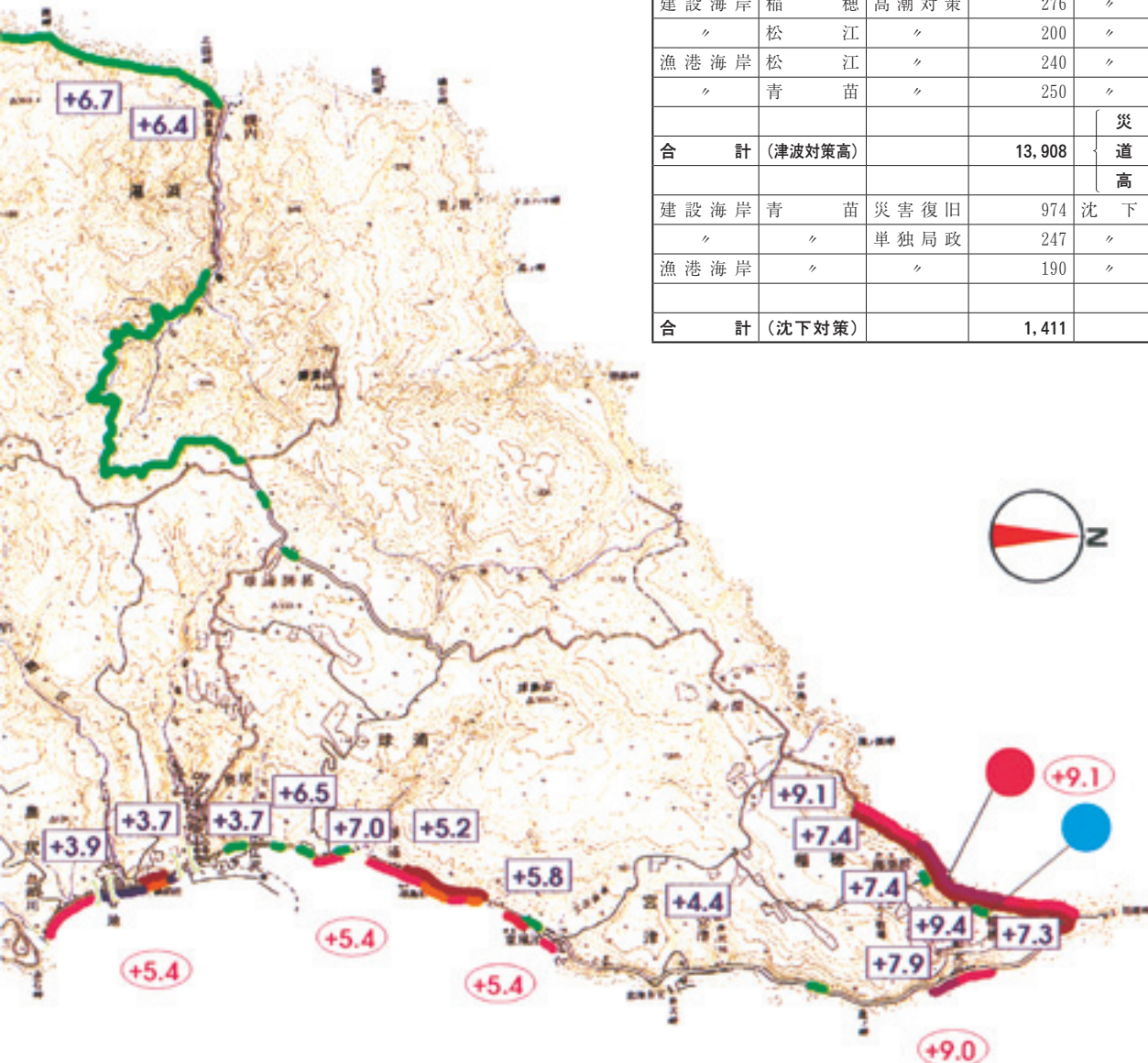
防潮堤



▲復旧、復興、今後の防災対策として防潮堤が整備された

奥尻島で建設済の海岸護岸(防潮堤)

海岸区分	地区名	事業区分	延長(m)	天端高決定根拠(事業主体)
建設海岸	野名前	災害助成	880	津波(北海道)
〃	赤石	〃	1,734	〃(〃)
〃	松江	〃	2,000	〃(〃)
〃	稲穂	災害復旧	392	〃(〃)
〃	勘太浜	〃	160	〃(〃)
〃	球浦	〃	1,135	〃(〃)
〃	谷地	〃	710	〃(〃)
〃	赤石	〃	220	〃(〃)
漁港海岸	稲穂	〃	1,027	〃(〃)
〃	勘太浜	〃	391	〃(〃)
〃	松江	〃	109	〃(〃)
〃	青苗	〃	1,790	〃(〃)
運輸海岸	谷地	〃	803	津波(奥尻町)
道路護岸	球浦	道路局政	955	津波(北海道)
〃	鍋釣岩	〃	131	〃(〃)
〃	赤石	〃	285	〃(〃)
〃	松江	〃	220	〃(〃)
建設海岸	稲穂	高潮対策	276	〃(〃)
〃	松江	〃	200	〃(〃)
漁港海岸	松江	〃	240	〃(〃)
〃	青苗	〃	250	〃(〃)
合計(津波対策高)			13,908	災害 11,351 m 道路 1,591 m 高潮 966 m
建設海岸	青苗	災害復旧	974	沈下(北海道)
〃	〃	単独局政	247	〃(〃)
漁港海岸	〃	〃	190	〃(〃)
合計(沈下対策)			1,411	



水門

津波対策の有効な方法として北海道で初めての津波水門の設置が検討され、釣懸川水門が平成7年3月、塩釜川水門が同年9月、赤石川水門が平成12年10月、青苗川水門が平成13年5月にそれぞれ完成しています。

水門は、全閉において河川流量を排水できるフラップゲートが設置されており、治水面にも対応できる構造となっています。

地震発生時に震度4程度を検知すると約1分間の非常放送後に自重降下を開始し、ゲートが全閉する機能となっていますので、万一の津波の襲来から河川及び周辺の地域を守ることができます。



▲津波対策として設置された青苗川水門

青苗小学校

地震、津波により被災を受けた青苗小学校は、国の「公立学校施設整備費」の補助を受けて校舎の新築工事が進められ、平成7年3月20日に完成しました。

この校舎は、「ピロティ構造（高床式）」となっており、2階と3階部分が教室、通常の建物の1階に相当する部分が空間になっていることから、津波の回避等に効果的な構造となっています。

▼津波対策として1階部をピロティ（空間部）構造とした青苗小学校



その他の復旧・復興

奥尻地区 観音山

地震による大規模な崖地の崩壊が発生し、島外宿泊者らの多くが犠牲となった奥尻地区観音山の治山工事が完成し、奥尻島復興のシンボルとして大壁画が設けられました。

(現在、大壁画は撤去されています。)



▲崩壊した崖地は大壁画とともに蘇った

青苗漁港 人工地盤

人工地盤は、災害時の迅速な避難誘導を図る防災機能をはじめ、水産業における就労環境の改善・向上や憩いの空間を創出する親水性など多機能施設として、地域活性化と安心・安全なまちづくりのシンボルとなっています。



▲青苗漁港人工地盤の全景



■施設の概要

規模：高さ／6.2m (D.L.+7.7m) 幅／31.9m
長さ／163.5m 面積／4,650㎡

構造：一本の柱から傘状に広がる六本の梁が連続しているヴォールト構造

避難階段：5箇所配置 (内3箇所は、シェルター有り)

使用用途：漁具保管修理施設用地／2,185㎡ 駐車場／662㎡
漁港環境施設用地／540㎡ 道路敷／1,163㎡

徳洋記念緑地公園

津波により完全流失した青苗地区は、徳洋記念緑地公園として生まれ変わり、中央には、この災害で亡くなられた198名の名前が刻まれた慰霊碑「時空翔 (じくうしょう)」が建立されており、また、この大災害の記録を後世に語り継ぐための施設として、奥尻島津波館が、平成12年11月に完成し、平成13年5月から本格的にオープンしています。



▲慰霊碑「時空翔」



奥尻島津波館▶



蘇る夢の島！

北海道南西沖地震災害と復興の概要

発刊	平成 8 年 3 月
改訂	平成 26 年 6 月
発行	北海道奥尻町 北海道奥尻郡奥尻町字奥尻 806 番地 TEL 01397-2-3111
印刷	(株)長門出版社印刷部